

レストランは美術館であり、 ファッショノン発表の場。 この空間を五感で楽しみたい。

グルメやワイン通でも知られている銅版画家の山本容子さん。ミッドランドスクエアのエノテーカ・ピンキオーリにて、クリスマス料理とワインを味わいながら、美食の楽しみについてお話を伺いました。



銅版画家
山本容子さん
Yoko Yamamoto

やわらかく繊細な描線と印象的な色づかいが、都会的で洗練された独特の雰囲気を持つ。銅版画家としてだけでなく、書籍の装帧や挿画なども手掛け、アクセサリーや食器、舞台衣装のデザインからCM出演など、幅広いメディアで活躍し、年齢性別を問わず多くのファンから支持を集めている。アートワークプロジェクトとしては、音楽ホールやウェディングチャペルの壁画制作、表参道ルイ・ヴィトンビル新築工事仮囲い、新宿3丁目駅のステンドグラスなどがある。グルメ、ワイン通としても知られており、2002年にはフランス・ブルゴーニュ・モメサン社のボジョレー・ヌーヴォーのラベルを描いた。



「X-Xmas Xylophone」
2011年
ソフトグランド・エッチング、グワッシュ
イメージ・サイズ10×10cm

さんの作品は、洒脱で洗練されていて、まさに山本さんの印象そのもの。白雪姫や不思議の国のアリスなど、世界中の童話をモチーフにした作品でも知られています。ミッドランドのクリスマスマモチーフであるシンデレラについて聞いてみました。

「シンデレラは長い間、努力しても認めてもらえない、誰からも評価されず、ひどい状況が続きますよね。でもやがて、その努力と才能が認められて王子様と出逢うことができる。この物語には、努力している人は必ず誰かがその努力を見ていてくれるという大切な意味があります。逆に努力をしない人のところには王子様は現れないでしょうね。平安時代に書かれた日本のシンデレラと言われる『落葉物語』でもまったく同じことが描かれていると山本さんは言います。「努力する人のところには必ず幸せがやって来る」というストーリーは、やはり万国共通なのね」

銅版画家としての人生で、好機とも言えぬ。でもやがて、その努力と才能が認められて王子様と出逢うことができる。この物語には、努力している人は必ず誰かがその努力を見ていてくれるという大切な意味があります。逆に努力をしない人のところには王子様は現れないでしょうね。平安時代に書かれた日本のシンデレラと言われる『落葉物語』でもまったく同じことが描かれていると山本さんは言います。「努力する人のところには必ず幸せがやって来る」というストーリーは、やはり万国共通なのね

山本さんがかつて描いたシンデレラの作品では、ガラスの靴をモチーフにしたのだそうです。「ガラスの靴は夢の象徴。リアルな靴ではないですね。透明度が高いから、気づく人にしか理解してもらえない。描く側にとつては謎掛けのようないいです。そんな面白さがありました」可視性をテーマにしたシンデレラの作品には、山本さんの人生を見つめる視点がどこか

長く続けた仕事への自信
その信条に裏打ちされた
大人の女性像

山本容子さんが、シャープなデザインのいでたちで颯爽と現れます。ワンピースはまるで意志を持った布のように山本さんと一緒に見えてくるから不思議。ご自分の魅力をきちんと理解して纏う衣装を選ぶ、プレゼンテーションのできる憧れの女性像です。銅版画家として、独特の世界観で多くのファンを魅了する山本

山本容子さんが、シャープなデザインのいでたちで颯爽と現れます。ワンピースはまるで意志を持った布のように山本さんと一緒に見えてくるから不思議。ご自分の魅力をきちんと理解して纏う衣装を選ぶ、プレゼンテーションのできる憧れの女性像です。銅版画家として、独特の世界観で多くのファンを魅了する山本

01 山本容子さんセレクション クリスマス料理&ワイン



この日は、エノテーカ・ピンキオーリのクリスマスマニュールの中から、山本さんに料理とワインを選んでいただきました。「このラヴィオリならお肉を使っているけど、白ワインがいいんじゃないかしら」と山本さんがオーダーすると、ソムリエの星野さんがイタリアのシャルドネを勧めてくれます。ほのかな樽香と果実の凝縮味が印象的な白ワインに、ラヴィオリがピッタリと寄り添うようです。「ラヴィオリの皮がとても薄いのにしっかりしていて、野菜の食感とラヴィオリの軽さがマッチしてとても美味しいですね。ワインをいただくと相乗効果でさらに味わいが膨らみます」と、山本さん談。

[エノテーカ・ピンキオーリ 42F TEL.052-527-8831]

山本さんがかつて描いたシンデレラの作品では、ガラスの靴をモチーフにしたのだそうです。「ガラスの靴は夢の象徴。リアルな靴ではないですね。透明度が高いから、気づく人にしか理解してもらえない。描く側にとつては謎掛けのようないいです。そんな面白さがありました」可視性をテーマにしたシンデレラの作品には、山本さんの人生を見つめる視点がどこか

ワインと食事を色で合わせ
画家らしい視点で
レストランを楽しむ

世界中を旅した思い出の多くは、レストランでの一コマだったり、印象的な食事や美味しいワインたち、と語る山本さん。グルメであり、ワインにも精通している山本さんは、画家の視点で食事の風景を切り取っているようです。「たとえば生牡蠣をはじめて食べた時の感動って今でもはつきり覚えて、その感覺を、絵を描く時に思い出して情景を描くことがあります。美

味しくて楽しい思い出は、心にいつまでも残るから、いつでも思い描けるんですね」また、ワインと食事の組み合わせについては「色で合わせるというのはよくあります。今日いただいた黄色のラヴィオリには、黄金色の白ワインが合うんじゃないかな」と想像するんですよ」パレットの上で色を選び、重ね描いていくように、料理とワインの色合わせにも楽しみを見いだす山本さん。食材とワインを色で合わせる方法は、実際にプロのソムリエも実践するソフトのひとつだそうです。



プロフェッショナルの仕事を
見て味わって楽しんで、
自分の素養を磨くところ

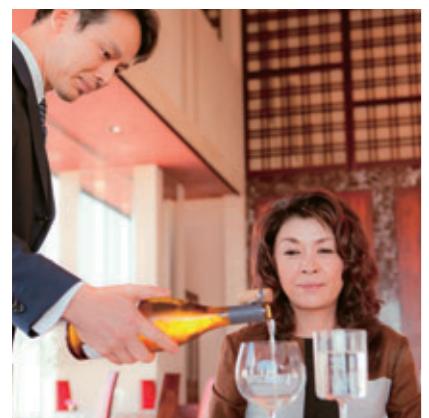
パーティーをして過ごすことが多いですね」山本さん流のおもてなしは、「我が家じゃなくてはできないこと」でゲストをビックリさせ喜んでもらうことだそうですね。「キッシュをたっぷり作って、焼き上がる匂いと一緒に楽しんでもらうの。手作りの生地でキッシュのふちに飾りを作ると、容子さんのキッシュだと友人が喜んでくれて」他にも厚めにカットしたり、シングルでせるタルトタタンが好評だとか。シンプルでセンスの良いおもてなしの風景が浮かんてくるようです。

マダムが素敵だったら、そのセンスを鑑賞するのもレストランの面白みのひとつだと言います。

そして、いつも訪れるお店には好みを分かってくれている人がいるから、プロフェッショナルにお任せし、料理とワインを味わうのが山本さん流のリラックスタイム。「どんな分野でも、プロフェッショナルの話を聞くのが好きなんですね」

イタリアンレストランに出掛けたら、イタリアに行つたつもりで、料理のこともワインのこともプロにいろいろ教えてもらつて楽しめます。たとえ知識があつたとしても、プロの前で知識をひけらかすなんてとんでもないこと!」さらに、大事なマナーを忘れてはいけないと付け加えます。「ソムリエもシェフも自分のための人ではなく、そのレストランにいるお客様全員のために仕事してくださっている方々。だからリスクの気持ちを忘れずに、自分のテーブルでプロを独占しないことですね」料理やワインを楽しむだけでなく、人間としての素養を磨く

レストランという空間が大好きだと言いう山本さん。「レストランのインテリアや雰囲気に合わせて、着ていく服を選び、バッグやアクセサリーをコーディネイトして、連れ立つパートナーとのバランスを考える。レストランは、自分のセンスを発表する場であるわけですから、準備するところから楽しみは始まっています」もしも隣の席に座っている



Topics 02 山本容子さん展覧会情報

山本容子の「京都遊び 三十三景」展

「ずっと描きたい、いつか描かなければいけない」と山本さんが思ってきた京都の街への思いが、33点の銅版画となって新たに発表されます。山本容子さんの世界観が京都の風景とどう響き合ってハーモニーをみせるのでしょうか。山本容子さんの新作をお楽しみになってください。

2012年11月7日(水)~13日(火)
午前10時~午後8時
入場無料
伊勢丹新宿店
本館5階アートギャラリー
東京都新宿区新宿3-14-1
03-3352-1111(代表)

「三条通りコーヒ店」 2012年
ソフトグランド・エッチング、グワッシュ
イメージ・サイズ20×30cm

山本容子美術館 LUCAS MUSEUM <http://www.lucasmuseum.net/>

場所と考えれば、レストランはもつとも楽しい場所になるかもしれません。最後に歳を重ねても素敵な女性でいるために気をつかっていることは?と尋ねると「好奇心を失わないことですね」と即座に答えてくださいました。知った

「クリスマスの思い出で印象深いのはルーマニアのシビウという街を旅した時のこと」山本さんがその地を訪れたのがちょうどクリスマスシーズンでした。ホテルの目の前には木の大木がありまし

つもりでいないこと、自分はまだ経験も知識も足りないなと思うことが大事なのだと。レストランを美術館と捉える感觉は、いつまでも好奇心旺盛な山本さんならではのセンスそのものだったのです。

たが、クリスマスらしい飾りがなく、意外に簡素なクリスマスだなと思ったのです。ホテルの部屋に入つて窓の外を眺めたその時、眼下の木の木に子供たちが集い、歌いながらぐるぐると回っていました。色とりどりの衣装をつけて、クリスマスソングを歌う子供たちの姿を見て「これがホーリーナイト、クリスマスの原点なんだなと感じました」

「若い時はディナーに出掛けた西洋風のクリスマスを楽しんだりしましたけど、最近のクリスマスは自宅で友人たちと

ある真珠ブランドとのコラボレーションで作られた、世界にたった一つのブレスレット。「なんとなくクリスマスっぽいかなと思って」と山本さん。小さな額の中には山本さんが描いた犬の絵がアクセントになっています。



クリスマスは
友人と楽しい一夜を